

『第14回 教育と安全フォーラムinひろしま』を終えて

実行委員長 相澤 光恵

今年の教育と安全フォーラムも、多くの皆様のご参加をいただき、実りある研修として盛会に終了することができました。

午前は、日本安全教育学会理事長の渡邊正樹先生から「子供の命を守り、学校の教育を守る学校安全教育・危機管理の取組」と題したご講演をいただきました。事故発生の未然防止及び事故発生に備える事前の取組について、さらには働き方改革についての最新情報を交え、地域等の協力・連携の一層の重要性についてご教示いただきました。

体験交流では、参加者が14グループに分かれ、“一度に複数の傷病者が発生したり、一人が複数の傷病を負ったりした場合”の事例を中心に“ひやり ハット”体験を共有し交流を深めました。参加者からの様々な事例に対して、助言の先生方から、丁寧な指導・助言をいただき、事故防止の取組と教育、いざというときに機能する緊急体制の在り方、研修・演習を継続していくことの必要性など、多くのご示唆をいただき、参加者の危機意識や資質の向上に繋がったと確信しております。

午後は、日本赤十字社救急法指導員 脇谷孔一先生より「学校教職員に必要なファーストエイド ～新たな展開とポイント～」と題してのご講演をいただきました。心肺停止とアナフィラキシーショックへの対応についてや、身近な物を使用し十分な応急処置が可能であることなど明日への実践に繋げることができる内容でした。さらに、災害による傷病と災害時の医療についてはFAST やトリアージの重要性についてご教示いただきました。

おかげをもちまして、予想以上の成果を収めて終了することができましたこと、心より感謝申し上げます。

多くの参加者に実行委員も加わり、学校安全について協議することができました。ご参加いただきました皆様方とともに、日々の執務の見直しと今後の教育実践に向け、大変有意義であったと感じています。

今後も学校の安全文化の創造に向け、スタッフ一同、参加者の皆様方と共に研鑽を重ねたいと強く心に受け止めてまいります。改めて本フォーラムにご参加、ご協力いただきました皆様に、心より感謝を申しあげ、報告とさせていただきます。

会場の様子（グループ別体験交流）

